

1. 全国学力・学習状況調査結果の概要

【小学校】

1. 町の大まかな傾向

国や県とほぼ同様な傾向であり、国語・算数共に、A問題では、多くの設問において、概ね良好な状況である。一方、複数の特定の設問において、特に課題がある状況である。結果をよく分析して、これらの課題を克服できるよう指導改善をはかる必要がある。

国語・算数共に、B問題では、記述式の問題に課題がある。また、これらの設問に対しては、無答率が高い。「事象を自分の力で読みひらき、自分の考えを持ちながら、それらを適切に表現する」といった力（いわゆるPISA型学力）を育む指導を工夫する必要がある。

算数Bについては、経年的には、良好な推移をたどっている。

また、例年に比べて、小学校ごとで、達成状況、課題状況に違いが出てきている。

2. 国語A

漢字を読むことは多くの児童ができています。漢字を書くことについては課題がある。

「接続語を使って一文を二文に分けて書く」「毛筆の下書きについて大きさや配列に着目して書き直す内容を書く」「司会の進め方の良いところを説明する」に課題がある。

[20年度]

漢字を読むこと、説明文の要点を把握することは概ね良好である。

漢字を書くこと、一文を二文に分けて書き換えること、効率よくメモをとることについては課題がある。

3. 国語B

「報告文に必要な事柄を整理したり、事象や意見などを関係付けながら書く」「自分の立場や意図を明確にして話し合うこと」に課題がある。

記述式の設問の無答率が高い。

[20年度]

登場人物の特徴・心情や場面についての描写をとらえること、文を要約したり書き換えたりすること、文章の書き方の良さや工夫に気づくこと、情報を読み取り事実・感想・意見などを区別して自分の考えを明確に書くことに関しては課題がある。

4. 算数A

整数、小数、分数の四則計算は、多くの児童ができています。それらを含めて、全体の3分の2程度の設問については、概ね良好な状況である。

「数の四捨五入」「偶数の意味理解」「資料の分類整理から表化する」「百分率の計算」に課題がある。

[20年度]

四則計算、10進法、平行四辺形の面積については概ね良好である。

加法と乗法を混合した整数の計算問題、分数の意味、分数と小数の大小関係、図形、百分率に課題がある。

5. 算数B

「基準量と比較量を基にして、割合の大小を判断し、その理由を記述する」「示された部分の長さを直接測らなくても調べられる理由を図形の性質を基に記述する」などの記述式の設問に課題がある。また、記述式の設問の無答率が高い。

全体としては、昨年度までに比べ、課題状況の改善がうかがわれる。

[20年度]

グラフや表から情報を読み取ることは概ね良好である。

与えられた条件を基に情報を選択し筋道を立てて考えること、また理由を具体的な数値を用いて自分の考えで説明したりすることなど数学的な考え方に課題がある。

【中学校】

1. 町の大まかな傾向

全体の傾向は、国・県とほぼ同じ状況であるが、国語（A問題、B問題）、数学（A問題、B問題）ともに、課題と考えられる領域、内容がある。

A問題については、学習指導要領に示される基本的事項を問うものばかりであるので、これらの確実な習得がはかられるよう学習指導の改善、生活の状況の改善も含めた家庭学習の習慣化が求められる。

B問題については、国語、数学に共通する課題として、「事象を自分の力で読みひらき、自分の考えを持ちながら、それらを適切に表現する」といった力（いわゆるPISA型学力）の育成に課題がある。新学習指導要領の趣旨を生かしながら、授業の改善が求められる。

2. 国語A

漢字を読む能力は、良好な状況である。

言語事項の領域の中で、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」に課題がある。読むことの領域の中で、「短歌の形式に従って意味のまとまりをつかむこと」に課題がある。

[20年度]

話し合いの司会としての適切な発言、効果的なインタビューの仕方、文脈に即して漢字を正しく読むこと、文脈の中で語句を適切に使うことなどは良好である。

論理展開に即して説明文の記述の内容を読み取ることや、文脈に即して漢字を正しく書くこと、辞書を活用して漢字・慣用語の意味を適切にとれえたり書いたりすることに課題がある。

3. 国語B

「資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる」「詩の内容や構成、表現上の特徴などを踏まえて写真を選び、詩と関連づけて自分の考えを書く」に課題がある。基本的事項の習得を重視しつつ、それらを活用する力の育成が求められる。

[20年度]

文章の内容を正確にとらえること、文学作品の登場人物の人間関係や心情をとらえることなどは概ね良好である。

資料の中から必要な情報を選び、伝えたい事柄を明確に書くこと、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くこと、自分の立場を明確にして意見を書くことなどに課題がある。

4. 数学A

数と式、図形の領域での知識・理解、表現・処理については、概ね良好であるが、1年生で学習した内容について、課題がある。新学習指導要領でも強調されているスパイラルな指導が必要とされよう。

数量関係（関数等）の領域に、課題がある。

[20年度]

正の数と負の数の計算、方程式の解き方と利用などは良好である。

文字式の意味を具体的な事象の中で読み取ること、関数の式を求めること、点対称な図形を完成することや三角形の合同条件・平行四辺形の条件・反比例の意味・確率の理解などに課題がある。

5. 数学B

「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」「事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する」などの「説明問題」に課題がある。また、これらの設問については、無答率も高い。

今後、数学的な活動を軸にして、数学的な読解力、表現力を伸ばしていく必要がある。

[20年度]

与えられた情報を的確に処理すること、問題場面における考察対象を明確にとらえることは良好である。

数学的な表現を用いて説明すること、事柄が成立することを方針にもとづいて説明したり証明したりすること、事象を数学的な意味で考え、解釈したり説明することなどに課題がある。